

# 沼津市明治 史料館通信

二〇一四年四月

通卷117号

■シリーズ 市民が語る戦争体験 8  
「北京での生活と引揚」 青木功さんの体験談



川上冬崖画 太湖石花卉（当館所蔵）



青木功氏略歴

昭和十一年一月 北朝鮮平安北道に生まれる

一六年三月 三島町白道幼稚園卒園

一七年四月 北京東城第一日本国民学校入学

二〇年八月十五日

国民学校講堂で玉音放送を聞く

二一年二月 天津に到着

五月 長崎県佐世保に上陸

駿東郡清水村清水小学校四年生入学

二七年三月 沼津市立第五中学校卒業

三三年三月 沼津商業高等学校 卒業

五七年 沼津日中友好協会 入会

六〇年 沼津国際交流協会 入会

# 「北京での生活と引揚」

## 青木功さんの体験談

### 北京での生活

昭和一六年、三島町の白道幼稚園を卒園し、軍属（獣医）だった父の転勤で中国・北京へ行きました。港附近には暗い夜空に飛来する敵機を発見するための探照灯（サーチライト）があり、その光が何本も何本も空に向かって動き回っていた光景を今でも覚えてます。

昭和一七年、北京の東城第一日本国民学校に入学しました。当時、北京には一〇校余の小学校、女子学校、北京中学校等がありました。東城第一国民学校はその中でも一番大きな歴史のある学校で、当時、既に教室内にはスチームが通っていて、暖かい弁当を食べることができました。

冬は運動場を凍らせてスケート遊びもしました。校庭の西北には武道場が

あり、中に柔道場、剣道場があり、私は剣道をやっていました。練習が終わると大人も子供も兵隊さんたちも、みんな一緒に大きな風呂に入って汗を流し、大勢でにぎやかに話し合い、楽しい時を過ごしました。

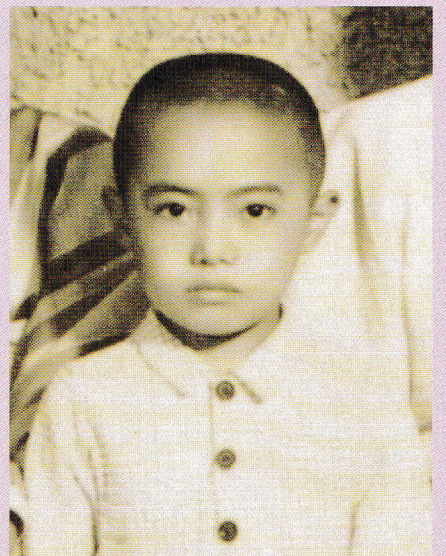
登校時はみんな一緒に、上級生が下級生を誘導してくれました。歌をよく歌いました。「倒せアメリカ、アメリカ、アメリカ倒せ。来るなら来てみる赤トンボ、ブンブン荒鷲ぶんと飛ぶぞ。」など、上級生の指導の元、よく歌ったものです。

またある時は、運動場の鉄パイプを球状に組み合わせた遊具の中に上級生が入り、パイプに掴まり大の字になりグルグル回転させました。「飛行機の空中戦の訓練だ」と言っていました。私たちも手旗信号やモールス記号の練習

をしました。

運動場の脇のほうに先生たちとみんなが防空壕を掘り、上にアンペラを乗せてカモフラージュした事もありました。

三月一〇日は陸軍記念日でした。朝から花火や音楽で賑やかでした。兵隊さんが仮装した松葉杖や泣き顔のルーズヴェルトやチャーチルたちの行列が歩いていました。記念会場に友達と行く途中、母の入院している陸軍病院に見舞いに往くよう父に言われ、母の病室に行きました。久しぶりの見舞いに母は喜び、「近くにきて顔を見せて」といわれました。枕元まで行きましたが、何故か顔も見せず病室を出てしまいました。その時が最後の別れになってしまいました。母は翌月亡くなりました。今でも後悔しています。



青木功さん  
(昭和18年・7歳のとき北京にて)

### 用語解説

#### アンペラ

戦時中の中国では、竹を平たく伸ばして筵状に編んだものをアンペラと呼び、家屋の屋根や壁に使用していた。

#### 渡辺はま子

戦前から戦後にかけて活躍した歌手。戦時中、上海など戦地への慰問を多くし、「シナの夜」広東ブルース」など大陸を題材にした曲目を多く歌い、「チャイナ・メロデー」の女王」などと呼ばれた。

慰問に訪れていた天津で終戦を迎え、収容所で一年間の捕虜生活を余儀なくされたが、その間も日



## 終戦・そして引揚げ

昭和二〇年八月一五日、学校の講堂に全員集まり玉音放送を聞きました。恐かった先生が男泣きしていました。その姿を見て「日本は負けたのだ」と子どもながらに理解しました。

その一ヶ月ほど前、児童たちみんなに慕われていた先生が南方の戦地へ行っていました。泣きながら別れたあの先生は無事だったのでしょうか。

私が住んでいた軍属官舎にも、日本人は出て行くと中国人が押し付けてきました。仲の良かった中国人に見送られ、トラックに大勢で乗り、北京郊外に集結しました。

友達の母親が病気で亡くなり、大人たちが野原で火葬していました。子供たちには見せられないと大人は言っていました。

中国軍の管理下の元、順番に天津行きの貨物列車に乗りました。リュックを担ぐ人もあれば、トラックや手荷物を手につつ人たちもありました。北京を出発し天津へ向かいました。屋根も窓もない無蓋車（石炭の運搬に使った貨車）に乗りました。汽車が動くと煙や石炭の粉がバラバラ落ちてきました。トイレが無いので父や大人たちでトラックや荷物で囲いをつくり、真ん中にバケツを置いてトイレを作ったことを

覚えています。

夜中、突然、銃声が響き、列車が止まりました。略奪か？と震えていたら、又走り出しました。何回もこのようなことがありました。ある夜は、止められた列車に国民軍が乗り込んできました。大人たちと何やら話し合っていました。別れる時、「気をつけて、元気でな」と日本語で言いました。国民軍に入隊した若い日本人兵だったので。

昭和二一年二月、天津にやっと着きました。天津では地面を掘ってアンペラで囲った防空壕の中で過ごしました。水汲みは子どもの仕事で、ドラム缶に水を入れ、トロッコで押して運びました。

大きな倉庫の中に演劇場があり、水汲みの仕事の後で観覧券をもらいました。そこでは、映画や音楽演奏が始まる前に必ず中国人の偉い方の肖像が映し出され、会場全員、最敬礼をしました。渡辺はま子一行の慰問公演をその時見ました。

四月二五日 天津タークウ港よりLSTに乗り、祖国・日本に向かいました。港を離れ数時間過ぎてはまだ水の色は泥の海水でした。出発から半日以上して大海原に出ました。途中の玄界灘で、亡くなった人を水葬する場面がありました。みんなが読経する中、白い布に身体を包み、海へ落としきれま

した。その周りを船は汽笛を鳴らしながら周りました。死体は大きな渦と共に深い海の中に沈んでいきました。今でも鮮明に覚えています。

## 長崎佐世保に上陸

昭和二一年四月、引揚者を乗せた船が日本の近くに来た時、全員が甲板に上り、祖国の緑に見える山々に「万歳、バンザイ」と叫びました。今思っても涙が流れます。

艦は港に碇を下ろしましたが、上陸には数日かかりました。疫病患者が出たそうです。五月三日、小型船に乗り換え、やっと日本の地に足を下ろしました。引揚援護局の人たちにお世話になりました。

上陸と同時に、消毒のためのDDTを全身に散布され真っ白になりました。注射もされました。検疫の後、引揚援護局（現在のハウスステンボスの所）までの約七キロメートルの山道を、黙々と歩きました。援護局で手続きを終え、衣服、日用品等が支給され、何泊かしてから、郷里へ向かいました。

途中、原爆が投下された広島を通過した時に目にした、赤く焼け焦げたトタン屋根の残骸が、今でも目に残っています。

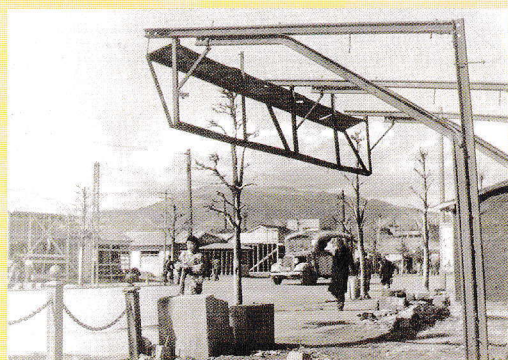
五月の半ば、沼津駅に降り立ち、チ

本人捕虜仲間を美しい歌声で慰めた。本文中の青木少年が見た渡辺はま子の公演は慰問ではなく、捕虜生活中の公演か。

### LST

Landing Ship, Tank（戦車揚陸艦）の略称で、揚陸艦自体が直接海岸に乗り上げて、歩兵や戦車などを揚陸する艦のこと。第二次世界大戦後、中国からの日本人の引揚げに際して、アメリカ海軍からLST一〇〇隻、リパティ船一〇〇隻が供与され、動員された。

ンチン電車で清水村（現清水町）に向かいました。沼津の街は焼け野原になったところにバラックが建っていて、ようやく復興が始まったところでした。



戦後復興期の沼津  
大手町付近  
昭和21年3月8日撮影  
(当館所蔵)



平成25年度新収資料の紹介 昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

|    |   |  |    |   |
|----|---|--|----|---|
| 寄贈 | 前山 譽子 様<br>大川 喜久平 様<br>西岡 昭夫 様<br>牧野 謹一 様<br>田辺 俊一 様<br>海野 佳子 様<br>近辻 喜一 様  | 支那事変行賞賜金国庫債券・受領注意書<br>窪田連山関係資料<br>石油コンビナート反対運動関係資料<br>口野古屋竹蔵ら成績表、修了証など<br>旧沼津藩士田辺家資料(追加分)<br>沼津兵学校創立70周年記念写真<br>沼津兵学校関係者宛葉書  | 購入 | その他沼津の歴史関係 (11件)<br>中村元敬(沼津藩医師)『尚武論』・庵地保(沼津藩出身)『重陽スベラル独案内』・大蘇芳年「名譽新談 伊庭八郎」・飯島半十郎『浮世絵師便覧』・『日用早算算法記』盛秀堂刊行・原町青年団機関紙『汐の香』第1巻第2号・長尾大学著(口野永昌寺住職)『湖山閑話』・「大平原家資料」一括・高田宜和(本町和田家出身)書翰・『徳器』・「引き札 桔梗屋佐治平」 |
|    | 沼津兵学校・旧幕臣関係 (24件)<br>〈沼津兵学校関係〉江原素六序『キリストの言葉』・乙骨太郎乙宛吉田賢輔書簡・中根香亭『香亭雅談』・渡部温『英吉利会話』第2版・川上冬崖画幅『奇岩花卉図』『地図彩式』・山田昌邦著・赤松則良校閲『新撰幾何画法』・松井甲太郎著『烈祖成績』・塚原洪柿園『佐倉惣五郎』『女子読本』『鳥左近』・篆額揮毫者小島好門「金苞園記念碑下書」・大平俊章出版『芸小地文学』・出版人宮川保全・著者石川長橋『三角術教授要録』・田辺朔郎『水力』・渡辺政吉編・中根淑校閲『実験日本修身書入門』『実験日本修身書』<br>〈その他旧幕臣など〉長田銚太郎『仏国区長手鑑』第1巻・益頭尚志編『内外統計一覽表』・鶴田清次『本草図譜 山草部』『澱粉一覽』・宮崎駿児『清韓商況視察報告』・多田充吉訳『紅茶説』巻之一・『芝園手帳』第84号 | 繪葉書 (36点)<br>「三津の美景」7点・「夏の静浦海岸(静浦保養館)」・「(国立公園富士)磯の香近き沼津狩野川口に立ちて」・「警護艦香取ノ静浦碇泊」・「まんなかに富士聳え立つ国の香」・「郷土の紹介 香貫山丘より望む沼津市街」・「千本浜海水浴場」・「沼津御用邸・沼津市役所」・「駿東八景(落款)」・「沼津警察署」4点・「沼津上土通り」・「沼津公園開園式記念」・「赤坂区臨海学園建築落成記念(我入道海岸・園舎全景・園舎内部)」・「御急変ノ当日兩陛下沼津御用邸御行幸啓」・「御急変ノ当日東郷元帥及各大官ノ沼津御用邸御見舞ノ光景」・「(国立公園富士の大観)三津海岸の富士」・「沼津向川岸料理兼旅館臨川館」其二、其三・「(沼津名勝)沼津公園附近ヨリ富岳ノ眺望」・「陸軍士官学校生徒夏季演習沼津到着実況」・「(沼津名勝)静浦海岸の景」・「沼津景観一新装なれる、近代建築美の産業会館全景」・「沼津市 城内大通り」・「沼津公園 魚見小屋」 |    |   |

平成25年度当館収蔵資料の利用 明治史料館の資料がいろいろなところで活躍しました。

☆展示使用

|        |  |
|--------|--|
| 4月     | 沼津御用邸記念公園(指定管理者くれたけ荘)端午の節句展示 祝い着   |
| 4月~5月  | 沼津まちづくり株式会社 イーラde 昭和の沼津写真展 古写真(パネル)  |
| 6月     | 富士通沼津吹奏楽団 第26回定期演奏会 沼津の古写真(データ) 株式会社テレビ静岡 キラメッセぬまづ 沼津鉄道史ブース 沼津駅関係古写真(データ)  |
| 7月     | 西浦地区「西浦コミュニティ文化展」平沢村絵図等(パネル)   |
| 7月~9月  | 富士市立博物館 特別展「鳥の目から見た富士~鳥瞰図の世界~」<br>吉田初三郎画「富士を背景とせる沼津三島」(実物)「ぬま津」(実物)「関東震災全地域鳥瞰図絵」(実物)   |
| 8月     | 八潮市立資料館「八潮の災害史—先人に学ぶ江戸時代から現代まで—」「地震之記」(データ)<br>千代田区立日比谷図書文化館 文化財特別展「鎌倉と江戸—中世と近世の武士—」沼津兵学校関係者肖像(データ)<br>静岡ターミナル開発株式会社 沼津駅ビルアントレ2階ギャラリー 沼津市制90周年記念写真展 古写真(パネル) |
| 9月     | 河井弥八記念館 常設展「静岡育英会講演会翌日の城岡神社詣で」(写真)   |
| 9~10月  | 沼津市立図書館 企画展「沼津市立図書館の変遷」沼津文庫(データ)   |
| 10月    | 千本常盤町自治会 町内地理変遷展 絵図・地図等(データ)、人物列伝パネル   |
| 11~12月 | 沼津御用邸記念公園(指定管理者くれたけ荘)古写真(データ)  |
| 11~12月 | 静岡市美術館「没後100年 徳川慶喜」展 徳川慶喜書「沼津覺」(実物)・同書「楽天理」(実物)・錦絵「日本外史の内 禁門の変」(実物)  |
| 3月     | 東京都写真美術館「没後百年記念 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」展 ガラス板写真「渡辺元英」(実物)・写真「中島三郎助」(実物)   |

☆刊行物掲載

|     |  |
|-----|--|
| 4月  | 静岡県歴史文化情報センター インターネット公開 小林村変地之図(「地震之記」より)(データ)   |
| 5月  | 南駿農業協同組合「ぬまづ茶」PR 静岡新聞5月20日朝刊掲載 江原素六肖像<br>学研パブリッシング『さかのぼり幕末史』「仏式伝習隊」(データ)   |
| 8月  | 株式会社メイツ出版『ビジュアル版神奈川の歴史』写真「大築尚志」  |
| 9月  | NHK文化センター千葉教室 講座案内リーフレット・ホームページ 江原素六肖像   |
| 12月 | 吉川弘文館 樋口雄彦著『人をあらく 勝海舟と江戸東京』「軍事掛附辞令」「山岡鉄舟写真」「勝海舟江戸開城図」「御撰剣槍砲柔術名家鑑」等   |
| 2月  | リゲル社「敗者たちの幕末維新」(洋泉社発行)「徳川家達」「西周」「大築尚志宛て辞令」「競勢酔虎伝 伊庭七郎」など   |
| 3月  | 三島市教育委員会 郷土読本「みしま」別冊版防災読本 絵葉書「静岡県三島町惨状」<br>南駿農業協同組合「ぬまっちゃん」ポトル缶 江原素六肖像<br>菅沼基臣「佐山芳太郎史伝」(沼津史談会『沼津史談』第65号掲載)「御浜海水冷温浴場保養館開業広告」<br>樋口雄彦「幕臣博物学者鶴田清次とその資料」(国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館研究報告』開館30周年記念論文集2)「葛布一覽」「草綿一覽」「澱粉一覽」『本草図譜 山草部』 |

☆テレビ等映像・その他

|     |   |
|-----|---|
| 5月  | 静岡あさひテレビ「とびっきり!しずおか」明治、大正、昭和期の沼津駅前写真        |
| 6月  | NHK BSプレミアム「英雄たちの選択 勝海舟の江戸城無血開城」江原素六関係文書 写真 |
| 10月 | 静岡第一テレビ「静岡〇ごとワイド!」内「くんちゃんのぐるっと富士山チャリ散歩」浮世絵  |

沼津市明治史料館通信

第117号

平成26年4月25日

編集・発行 沼津市明治史料館  
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1  
TEL055-923-3335  
FAX055-925-3018

印刷  
みどり美術印刷株式会社

第8回そくまつり  
5月18日(日)開催!  
江原素六学習作品展  
好評開催中(5/18まで)

開催予告  
企画展  
昔々のボク・わたし  
~近代沼津子ども事情~  
7月1日(火)~9月28日(日)

表紙の解説

川上冬崖画 太湖石花卉(当館所蔵)

川上冬崖(1828~1881)は、幕末から明治前期にかけて活躍した画家で、日本における近代洋画の先駆者として知られています。幕末期に幕臣となり、蕃書調所で西洋画法を研究しました。明治維新に際して沼津に移住し、沼津兵学校では絵図方に任命されました。後、東京に戻り、大学南校や文部省に出仕、陸軍省に転じ、軍用地図作成や測量・製図技術の研究・教育に尽くしました。また、下谷御徒町の自邸内に画塾「聴香説画館」を開き、洋画法の普及に功績を残しました。その一方で、冬崖は、本品のような太湖石の背後から花が伸びる定型的な構図の伝統的な日本画も多く描き、伸びやかな筆致も見えるように、むしろ日本画に才があったようです。